

20. Liver hot lobe sign 多田 明他...481
21. Tl-201, Tc-99m scan 法による甲状腺腫瘍検出の再検討 伊藤 健吾他...481
22. Tl-201 SPECT による肺癌診断 利波 紀久他...481
23. ^{131}I -MIBG シンチ陰性であった褐色細胞腫再発例 清水 寛正他...481
24. 乳癌 (stage I, II) 症例術後の経過観察
——とくに骨シンチグラムによる再発率について—— 井上 明美他...482
25. ^{11}C -CGP12177 を用いた犬心筋ベータアドレナリン受容体のイン・ビボ解析 瀬戸 幹人他...482
26. 出血シンチにおける $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -RBC (in vivo) 標識率低下の原因についての検討 川合 宏彰他...482
27. 新しい腫瘍マーカーキット (SLX「オーツカ」) の使用経験 古川 雅一他...482
28. Tissue polypeptide antigen (Daiichi-II) RIA キットの使用経験 金森 勇雄他...483

一般演題

1. 光ディスクを利用した画像処理効果と評価のための コンピュータ支援プログラム (CAI) の開発

小島 一彦 越田 吉郎 (金沢大・医短)

画像データの処理とファイリングへのコンピュータの有効な利用が期待されている。高速の画像記録と再生が可能な 3.5 GB の光ディスクの利用により画像操作を容易にし、処理画像のマルチ表示と処理効果の評価がスムーズに行えるシステムを検討した。さらに、画像評価の方法として代表的な ROC 解析や分解能測定を表示画面の指示に従って、評価データが収集できるコンピュータ支援プログラム (CAI) の開発を行った。メインプログラムは BASIC 言語で作成し、画像データは光ディスク内のデータベースから検索し、説明やカテゴリーならびに記入項目は画面ごとにワードプロセッサで作成できる方式を用いた。

2. デュアルエネルギー光子吸収法による骨塩量の測定 ——臨床的検討 (第1報)——

南部 一郎 瀬戸 光 亀井 哲也
古本 尚文 瀧 邦康 征矢 敏雄
中嶋 愛子 萬葉 泰久 二谷 立介
柿下 正雄 (富山医薬大・放)

Osteoporosis 早期診断のための Gd-153 使用の二光子吸収法による骨塩定量分析装置の基礎的検討および使用経験を報告する。装置は Norland 社製二光子骨塩定量分析装置 2600 型、使用核種は Gd-153 1 Ci 144 KeV、

100 KeV) である。まず較正は毎日使用時に、データを検証している。ファントムを用いた検者内における再現性は、CV が 0.35-1.32% と良好であった。また当装置では介在する組織の厚さに有意な影響を受けなかった。検査時間は 12.3-18 分と比較的短時間で済み、腰椎、大腿骨頸部および任意の部位の骨塩量の測定が可能である。使用経験上、欧米に比して日本人の骨塩量は低い傾向にあり、日本人における骨塩量の標準分布図作製の必要性が示唆された。

3. Factor Analysis による腎皮質機能の病態生理学的 検討——第2報：局所通過時間への重力効果につ いて——

小野 元嗣 竹田 寛 前田 寿登
伊藤 綱朗 寺田 尚弘 中川 毅
山口 信夫 (三重大・放)

腎皮質における urine flow に対する重力の影響を調べるため、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -DTPA study を Factor Analysis を用いて解析し、検討を行った。

正常例座位では、腎皮質因子は上極を中心に分布し、下極の皮質通過時間は上極と比較し有意の遅延を示した。腹臥位では、皮質因子は上、下極ともに均一に分布し、通過時間は座位での上極と下極の通過時間のほぼ中間の値を示した。閉塞性腎疾患群では、座位の場合でも皮質因子の分布は均一で、上極と下極とは通過時間に大きな差は認めなかった。

腎皮質での urine flow には重力が影響し、正常例では上極と下極の皮質通過時間に差がみられるが、urine